

DPC公表データから見た 北近畿地域における医療提供体制 の現状と問題点について

成美大学 経営情報学部
医療福祉マネジメント学科

○家原 葵 貝増 英貴 三宅 美穂
福富 亮平 森本 大志 星 大



背景・目的

- 北近畿のように市町村が点在する地域の病院はある程度医療を完結できる機能が必要？
 - 現実的には不可能であり、一病院で担いきれない医療を機能分担によってカバーしている可能性がある

↓

一般に入手可能なDPC公表データのみを用いて、北近畿の医療の現状を知る

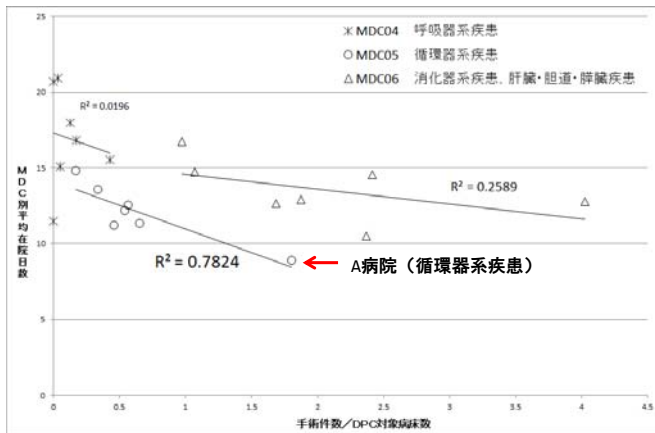
方法

DPC公表データ平成21～23年度分のMDC別・施設別に集計されたExcelファイルからデータを抽出し、分析を行った。

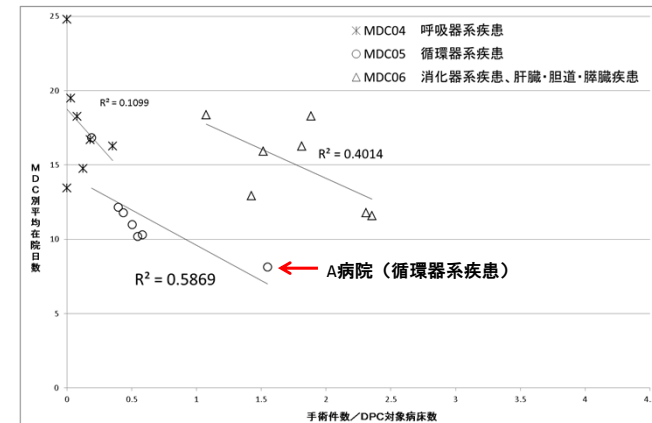
- 対象: 北近畿所在のDPC参加の7病院
- 使用したファイル
 - 施設概要表
 - MDC別・手術有無別・処置2有無別集計
 - 在院日数の平均の差 MDC別

中央社会保険医療協議会 診療報酬調査専門組織（DPC評価分科会）Webサイトより

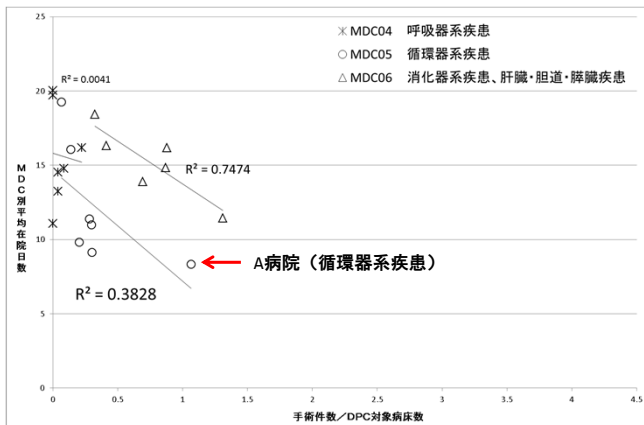
平成23年度 手術件数と平均在院日数の相関
(医療機関別、MDC04・05・06について)



平成22年度 手術件数と平均在院日数の相関
(医療機関別、MDC04・05・06について)



平成21年度 手術件数と平均在院日数の相関
(医療機関別、MDC04・05・06について)



考察1

- 今回は一般に公表されているデータのみで行った分析の結果を示した。
⇒ただし、得られた結果が実体と合致しているかは、定かでない
- 我々のような病院外の者が**病院の役割・機能を知る取っ掛かり**としては、公表データの分析は有用である。

考察2

今回用いたデータに

- 様式1のデータ(術式や病名)や電子カルテ等からのoutcomeデータを加えることによって、より説得力のある情報にできる。

⇒**診療情報管理士が寄与すべき点！**

- 地域医療機関の機能分化のために
⇒より分かりやすい情報を社会に発信する必要がある